

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3571300148		
法人名	社会福祉法人同朋福祉会		
事業所名	グループホームひかりの園		
所在地	山口県美祢市於福町下3267-1		
自己評価作成日	令和元年11月26日	評価結果市町受理日	令和2年6月2日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	令和1年12月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者と一緒に園の敷地内にある畑に季節の野菜を植え収穫まで育て、一緒に収穫を行い楽しんでいる。収穫した野菜は調理し、美味しく頂いている。また行事としてみかん狩りやドライブに出かけ、行った先での地域の方々との関わりを持つようにしている。また地域の敬老会に出席し、懐かしい方々と楽しいひと時を過ごされ交流がある。園行事の敬老会やひな祭りにはご家族にも出席して頂き、利用者に喜んで頂くと共にご家族、職員の意見交換、交流の場としている。法人行事の夏祭りには地域の方々の協力があり、出演して下さる方達と交の流もある。またどの園フェスタでは自分たちで作った作品を展示し、他施設の作品も見事で「こんなのを作っただいね」と利用者から言葉が出て、制作意欲に繋がっている。利用者の作品は地元の郵便局に展示してもらい地域の皆さんにも見てもらっている。利用者が楽しみを持って暮らせる様、職員は利用者の想いに寄り添い、安心して暮らせる場所の提供に努めたいと思っている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

月1回の職員会議時に研修計画に沿った内部研修をしておられる他、法人の朝礼の時間を活用して、曜日毎に理念、防災、勤務の心得などについて学んでおられ、今年度は目標達成計画に掲げた、緊急時対応のミニ勉強会を開催して、職員の資質の向上に取り組まれています。利用者の言動や表情をケースダイアリーに記録し、併せて「私の姿と気持ちシート」に随時追加記録して、処遇会議で検討し、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めておられます。利用者の思いを大切に、手作り弁当を持っての花見やミカン狩り、ドライブ、様々な行事への参加など、少人数単位での外出や、作品の展示、畑の花や野菜の世話、家事(洗濯物たたみ、掃除、雑巾縫い、食事の準備や片付け、おやつ作りなど)、ゲーム(トランプ、パズル、カルタなど)、布草履作り、生け花など、利用者のできる力や個別の楽しみを引き出し、利用者間の融和を図りつつ、一人ひとりの笑顔が見える支援をしておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)		1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中で穏やかな暮らしが出来る様、法人理念である「優しい心、ふれあう心、温かい心」を持ち明るく・楽しく・のんびりと、その人らしさを大切に地域と関わりながら理念に基づいたケアを実践すると共に朝礼時に唱和し共有し実践に繋げている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。週1回、朝礼時に理念を唱和して理解し、利用者の笑顔が見られるケアを心がけて実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の行事には地域の方の協力、参加がある。散歩に出て近所の人と会えれば挨拶や会話し、交流を図っている。また食材配達の方が来られ利用者とお茶を飲み話して行かれるなど交流がある。	法人の行事(ともの園夏祭り、ともの園フェスタ)に地域の人やボランティアの参加や協力を得ている。地元の郵便局に展示コーナーを設けてもらい、利用者と職員と一緒に作成した貼り絵作品を展示して見学に行き、地域の人と交流している。月1回発行する法人だよりに事業所の活動を紹介している。ボランティア(尺八演奏など)やの来訪がある。、毎日の食材を配達してくれる地元の店主との話らいや、日頃の散歩や外出時に出会った地域の人との挨拶の交換があり、花の差し入れを受けるなど、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内勉強会や外部研修に参加し知識を得ている。また相談があった場合は自分が応えられる範囲で応えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価の意義について説明、全員が理解し、全職員で自己評価を行い、自分自身のケアを振り返り、反省点を見つけケアの改善に努めている。	自己評価は'管理者が評価の意義を説明し、評価のための書類に全職員が記入して、管理者が項目毎にまとめ、それを回覧して朝礼で話し合ってまとめた。外部評価結果は運営推進会議で報告するとともに、職員に朝礼で伝えて回覧した。目標達成計画を立て、行政や地域の人を含めた災害時の緊急連絡網を整備したり、応急手当や初期対応の実践力をつけるための週1回のミニ勉強会に取り組むなど、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、市高齢福祉課職員、地域包括支援センター職員、消防署職員、警察駐在、民生委員、地域の方を案内して、年6回開催している。施設の取組みや利用者の様子等について報告し、助言等頂いている。	年6回開催し、活動状況や活動予定、事故、ひやりはっと、外部評価結果などについて報告し、身体拘束防止、災害対策、防災訓練などについて話し合っている。メンバーから感染症対策などの専門的情報や地域情報などの提供を受けている。提供された情報を利用者の外出の参考にしたり、話し合いから緊急連絡網の整備に取り組むなど、会議での意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当課職員とは運営推進会議や電話、直接出向いて法改正などについて教えて頂いている。また地域包括支援センター職員とは運営推進会議の他、入居希望がある利用者について情報交換するなど、関係を築くよう努めている。	運営推進会議に市担当課や地域包括支援センターの参加があり、意見や助言を受けたり、情報交換している他、直接出向いたり電話などで相談して助言を受けて協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が身体拘束に当たるのか、施設内勉強会で学び理解し日々の業務に当たっている。玄関は施錠せず、外に出たい利用者には散歩に誘って一緒に出掛け、気分転換を行うなど鍵を掛けないケアの実践に努めている。	全職員が参加する職員会議で年4回「身体拘束等適正化委員会」を行っている。身体拘束について学び、全職員が理解して、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックをしないよう心がけ、気になるところがある時は、管理者がその都度注意したり、職員同士で話し合っている。玄関は施錠せず、外に出かけたい利用者には、職員と一緒に付き添って出かけたり、気分転換ができるよう支援している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会で虐待防止関連法を学び、どういった行為が虐待に当たるのかを職員は理解しており、虐待を見過ごす事のないよう職員間で理解し防止している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会があれば積極的に参加し知識を得たいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には、施設で出来る事出来ない事など、利用者や家族の不安や疑問に思っていることをしっかり聴き出し、十分な説明を行い理解、納得が得られるようにしている		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付箱を設置し、苦情受付体制を定め入居時に説明している。家族会を兼ねた行事や面会時に要望等が表出しやすい雰囲気作りに努めている。	契約時に苦情や相談の受付体制や第三者委員などについて家族に説明している。玄関に苦情受付箱を設置している。面会時や家族会を兼ねた行事(敬老会、ひなまつり)参加時に意見や要望を聞いている。個別のケアに関する要望にはその都度対応しているが、運営に反映させるような意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は月一回の職員会議や、申し送り時、朝礼時に職員の意見や提案を聞かせてくれている。職員からの意見や提案は月一回の施設長会議や高齢者部会で検討し運営に反映させている。	管理者は月1回の職員会議や朝礼、申し送り等で職員の意見や提案を聞いているほか、日々の業務の中で職員の意見や提案を聞いている。管理者は月1回の法人の高齢者部会や施設長会議で検討して、運営に反映させている。利用者のニーズに合わせたケアができるように、日々の業務を職員間で調整するなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し日々の労をねぎらい、各々が抱えている悩み等が軽減できるように、また資格取得等向上心を持って働けるように職場の環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は研修案内情報を職員に伝え、希望や本人の段階に応じた研修が受けられるように配慮し、年2回の法人内研修や施設内勉強会等学べる機会を確保している。研修後は復命報告を行い資料を回覧し知識習得の共有を図っている。	外部研修は職員に情報を提供し、希望や段階に応じて勤務の一環として受講の機会を提供している。今年は身体拘束廃止と高齢者虐待防止、バイタルサインの見方等、2回受講し、受講者は復命報告をして資料を回覧し、情報を共有している。法人研修(学びセミナー)を年2回実施し、受講者は資料を回覧している。内部研修は月1回、年間計画を作成し、認知症について、事故防止・再発防止、緊急時対応(誤嚥、窒息、発熱、骨折、心肺蘇生、緊急時マニュアルの確認)、身体拘束・虐待、プライバシー、職員倫理などのテーマで実施している。毎日の朝礼の時間を活用し、曜日毎に法人や事業所の理念、防災、緊急時対応のミニ勉強会、勤務の心得などをテーマに学んでいる。新任者は管理者や先輩職員が日々の業務の中で学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム協会宇部・山陽小野田ブロックに所属し、勉強会参加等の機会を通じ交流が図れるよう努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いを聴き、その想いに沿ったケアが提供出来る様、しっかりと本人を理解しお互いの関係性を深めて、不安が軽減出来、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っている事、不安に思っている事が話せる様、話しやすい雰囲気努め、家族の想いに耳を傾け安心してもらえるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「その時」に本人、家族が何を必要としているのかを見極め、状態、状況によっては他事業所に繋げるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる力が発揮でき、それぞれが輝ける場面作りを工夫し、お互いを尊重できる関係が築けるように努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や電話があった時に様子を伝え施設と家族が共に本人を支えているとの思いを共有してもらい一緒に支えていく関係が築けるようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所の知人や友人が訪ねて来られたり、通い続けている美容院に行かれたりしている。知人や友人の訪問時にはコーヒーやお茶を出し、話しやすい雰囲気、場所の提供に努めている。	家族の面会や親せき、近所の人、友人の来訪があるほか、携帯電話や年賀状、手紙などでの交流を支援している。自宅周辺のドライブや、家族の協力を得ての馴染みの美容院の利用、一時帰宅、外出、外食、温泉、墓参りなど、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状態や相性を考え、お互いが楽しく気持ちよく関われるように職員が間に入り工夫している。一人一人が孤立せず、お互いに関わりが持てるように職員は見極め、支援の工夫をしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に変わられた場合でも会いに行くなどし、街でご家族に会えば声を掛けたり掛けられたりしている。また契約が終了したご家族から電話を頂く事もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で発せられた本人の想いや言葉は記録したり、職員間で話し共有し、思いや意向の把握に努めている。	入居時のアセスメントでセンター方式のシートを活用して思いや意向の把握に努めている。日々の関わりの中で利用者の言葉や行動、表情をケースダイアリーに記録し、「私の姿と気持ちシート」に随時追加記録して、職員会議の中の処遇会議で検討している。受診や入浴など個別対応の時間に発せられる利用者の思いを大切に、朝礼後やその都度、職員同士が情報を共有して話し合い、一人ひとりの思いや意向を検討している。困難な場合は、職員間で話し合っ本人本意に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話や家族、知人からの話の中でこれまでの生活環境を把握するように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活を観察し、好き嫌いや、出来る事出来ない事を把握し本人の持っている力、能力が引き出せる様努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の関わりの中で想いを聴き、家族には面会時や電話で意向を伺い、それぞれの意向を反映し職員全体で意見交換やカンファレンス、計画を作成、6か月の見直し、状態に変化が生じた場合随時見直しをしている。	計画作成担当者を中心に、月1回の処遇会議で、ケースダイアリーを活用して本人の思いや家族の意向を検討し、職員や医師、看護師等の意見を反映させて介護計画を作成している。評価表(モニタリング実践記録表)により、月1回モニタリングを実施し、6ヶ月毎に計画の見直しを行っている他、利用者の状態の変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記録に残し、状態申し送り簿にて申し送っている。伝達ノートやメモで情報を共有、ケアの実践や見直し計画作成に活用している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医への通院付き添いや選挙がある時の付き添い、地域の行事に出席される時は一緒に行き付き添う等出来る限り利用者のニーズに応えられるよう努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方や民生委員、消防、警察等の協力を得て利用者が安心して、安全に豊かな暮らしが楽しめる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族に確認し医療機関を決めている。かかりつけ医や協力医療機関と連携し継続的に医療を受ける事が出来る様支援している。	本人や家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関をかかりつけ医としている利用者は、事業所が定期受診を支援している。他のかかりつけ医や他科への受診は家族の協力を得て支援をしている。受診時は緊急時個人カードで医療機関に情報提供を行い、結果は電話で家族に連絡している。職員は申し送り簿と伝達ノートで情報を共有している。緊急時や夜間は隣接の法人看護師がオンコール対応し、協力医療機関と連携をとって、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	変化に気づいた時はクリニック看護師又はオンコール対応看護師に連絡、適切な対応が取れるようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報を提供、看護師からも情報提供を受け本人が落ち着いて適切な医療が受けられ早期に退院出来る様、家族とも連絡を取り合いながら支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見学时、申込み時、重度化した場合の対応(ターミナルケアはしない)の方針を説明。主治医や看護師、家族と相談しながら本人、家族の不安にならないよう最善を尽くし次の支援に繋げて行ける様、全員が理解し取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合に事業所のできる対応について、移設も含めて家族に説明している。実際に重度化した場合は、早い段階から家族の意向を確認し、主治医や看護師等と相談しながら関係者と話し合い、方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事例発生時は当日出勤の職員間で話し合い対応策を記録し、他の職員にも申し送り簿や報告書の回覧で事故防止に努めている。消防署や救急救命士の資格を持った法人職員の協力を得てAED応急手当講習会を実施し、実践力を身につけている。	事例が発生した場合は、ひやりはっと報告書や事故報告書に記載し、全職員に回覧して、申し送りや朝礼で共有している。3から4ヶ月毎に事故対策会議でまとめて検討し、再発防止に取り組んでいる。内部研修で年4回、応急手当や初期対応について学び、週1回朝礼時のミニ勉強会で緊急時対応(誤嚥、窒息、発熱、骨折、心肺蘇生、AED)について学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでにはいたっていない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接のケアハウスと合同で防災訓練を年2回行い、風水害は年1回行っている。全職員が、利用者と共に安全に避難できる方法を身につけている。緊急連絡一覧を整備し、地域の協力が得られるようにしている。	年2回、法人の拠点施設と合同で昼夜間の火災を想定した消火、通報、避難、誘導訓練を利用者も参加して実施している。うち1回は消防署の協力を得て実施し、消防署を退職し救急救命士の資格を持つ職員の指導でAEDの訓練を実施している。年1回拠点施設と合同で水害、土砂災害訓練を実施している。支援協力機関(消防団、民生委員、地域の協力者等)連絡網を作成し、災害時の地域との協力体制の整備に取り組んでいるが、連絡網を活用した訓練はしていない。	・地域との協力体制を構築する取り組みの継続
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内の勉強会で誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応の仕方を学び、傷つける事のない様気をつけ、個人情報の取り扱いも気を付けている。	内部研修で利用者の人格の尊重とプライバシーの確保について学び、職員は理解して誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。気になる対応があれば管理者がその都度指導している。個人記録等の個人情報は保管に配慮し、守秘義務を遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	分かりやすい声掛けを心がけ、利用者が思いを表出しやすい雰囲気作りをし、利用者が自己決定出来る様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々の状態に応じて、様子を観て声掛けし、本人のペースで、本人の希望に添った過ごし方が提供出来る様支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時衣類の選択など、本人の希望を訊きながら本人の気に入ったおしゃれが出来る様支援している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月～土曜日の昼食は法人のきっちんセンターからの配食を利用。日曜日の食事と毎日の朝・夕食は園で職員が作り、簡単な下ごしらえ等利用者が出来る事を手伝ってもらっている。	月曜から土曜日の昼食は法人の配食を利用し、朝食と夕食、日曜日の3食は事業所で調理している。事業所の畑で利用者と一緒に収穫した野菜(エンドウ豆、トマト、キュウリ、サツマ芋、かぼちゃなど)を使い、利用者の好みを聞いて、法人の管理栄養士が献立を立てている。利用者の状態に合わせて刻み、とろみ、ミキサー食などの形状の工夫をしている。利用者は職員と一緒に、野菜の下ごしらえや台拭き、お茶のパック詰め、米を米びつに移す、などを行っている。午前午後のお茶タイム、ひな祭りや敬老祝賀会などの家族との行事食、季節の行事食(お正月のお茶と和菓子、おせち料理、恵方巻き、おはぎ、そうめん、かき氷、忘年お楽しみ会など)、月1回の外出時の外食、手作り弁当を持っての外出(花見、ミカン狩り)、おやつ作り(ホットケーキ、ぜんざいの白玉団子、たこ焼き、餅つきなど)、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことができるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が立てた献立をベースにアレンジを加え、トロミ剤使用やミキサー食など本人に合った食事形態を提供し摂取出来る様支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の力量に応じて口腔ケアの支援をしている。義歯の洗浄、消毒は夕食後に行い、歯ブラシ、コップの消毒を、定期的に行い清潔を保つ様に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレに行かれた際は日誌メモに記録し、排泄パターンを把握、一人一人に合わせた声掛けや誘導をして、トイレで排泄出来る様支援している。	日誌メモを活用して排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給の声かけや飲食物の工夫、適度な運動、散歩に誘い、便秘の予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回午前中に入浴している。利用者の状態に合わせて清拭やシャワー浴、個浴の対応をしている。入浴剤の使用や柚子湯も行い気分転換や季節を感じてもらっている。	毎日10時から12時まで入浴でき、週3回は職員と会話したり歌を歌うなど、ゆっくりと楽しみながら入浴できるように支援している。入浴剤を使用したり、柚子湯など季節のお風呂を楽しめるよう工夫している。入浴をしたくない利用者には無理強いをせず、職員を交代する、順番をかえる、声かけを工夫するなどしている。利用者の状態に合わせて清拭やシャワー浴、足浴、機械浴など、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調を観ながら、生活リズムが整うよう日中の活動参加を促している。安心して休むことが出来る様、ゆっくり話を聴くなど、精神的な安定が図れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個別にファイルしいつでも確認できるようにしている。名前の確認や服薬時間など声に出して確認後本人に渡す等誤薬の防止にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設の行事、調理の下ごしらえや下膳、畑の草取り、野菜や花苗の植え付け、洗濯畳、本を観たりDVDを観たり、塗り絵やパズル、作品作りや脳トレ等活躍できる場面作りをしている。外出散歩などで気分転換できるようにしている。	餅つき、ひな祭り、敬老祝賀会、忘年お楽しみ会、法人の夏祭りやフェスタ、いきいき音楽教室、3B体操、郵便局やフェスタで展示する作品作り、新聞や雑誌を読む、テレビの視聴、トランプ、ジグソーパズル、カルタ、計算ドリル、間違い探し、百人一首の坊主めくり、生け花、歌を歌う、貼り絵、ぬり絵、折り紙、畑しごと(植付、水やり、草取り、収穫)、食事の準備や片付け、おやつ作り、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、掃除、布草履作り、雑巾縫いなど、一人ひとりの力を活かした役割や楽しみごとをつくり、気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散歩やマイクロバスに乗っての外出、みかん狩り、外食、園の畑の野菜の世話や花の世話など外での活動が出来るように支援している。墓参りや自宅に帰ってみたい等の想いを家族に伝え協力をいただいている。	手作り弁当を持っての花見(桜)やミカン狩り、ドライブ(道の駅、ぼんぼこの里)、法人行事(夏祭り、フェスタ、法話の会、花祭りなど)や拠点事業所行事(いきいき音楽教室、3B体操)への参加、外食、郵便局での作品展示の見学、地元の敬老会参加、散歩、畑の花や野菜の世話、家族の協力を得ての墓参りや一時帰宅、馴染みの美容院の利用、外食、温泉など、日常的に外出を楽しめるよう少人数単位での外出を支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時に買物をする機会がある時は、利用者が自分で選び自分で支払いが出来る様支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状は毎年出すように支援している。電話の取次ぎもするが、携帯電話を持っている利用者もあり、自由に連絡を取られている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンからは食材を切っている音や料理の匂いで家庭の中にいる感じを味わってもらっている。ホールにはその時々飾り物、ひな人形や五月人形を飾る。換気に気を付けて心地よい環境作りに努めている。	玄関からのスペースや食堂、キッチンが一体となって十分な広さと採光がある。生花や観葉植物、季節の飾り物(雛飾りなど)、利用者と職員が一緒に作った季節感のある作品などを飾っている。窓からは四季の移ろいを見せる山や田んぼが見える。台所からは調理の音や匂いがして、家庭的な雰囲気の中、食卓やソファ、ベンチで思い思いにくつろぐことができる。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースで気の合う同士で思い思いに過ごし一人で静かに過ごしたい人は自分の思うように過ごせる様努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前の説明で、本人の馴染みのあるものを持ってきて下さいと伝えている。居室でゆっくり静かに塗り絵が出来るように机と椅子を置かれている方もある。居室には家族の写真や作品を飾り居心地の良い場所作りに努めている。	小タンス、籐の回転椅子、衣装ケース、棚、テレビ、ラジオ、時計など使い慣れた家具を持ち込み、家族の写真や折り紙作品、色紙、ぬいぐるみなどを飾って、居心地の良い空間をつくっている。各室の入り口には花の名前と絵が入った表札があり、本人がわかりやすいに工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、廊下や浴室、居室に手摺を取り付け、安全に安心して自立した生活が出来るように、また居室には名札、トイレには表示等で分かりやすい工夫をしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホームひかりの園

作成日: 令和 2 年 6 月 1 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	緊急時に備え、日々の勉強や訓練は行っているが、職員全員が実践力を身に付けるまでには至っていない	全職員が緊急時に慌てることなく、初期対応の実践力を身につけられる。	全職員が緊急時の初期対応、応急手当について学ぶ機会を確実に持てるように、勤務に合わせて内部研修やミニ勉強会を計画的に開催する。	12ヶ月
2	36	災害時の地域との協力体制は整備されているが、連絡網を活用して地域の協力を得た訓練が実施されていない。	防災訓練に地域の方の参加協力を得られる。	防災訓練の時地域の方に参加協力依頼をする。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。